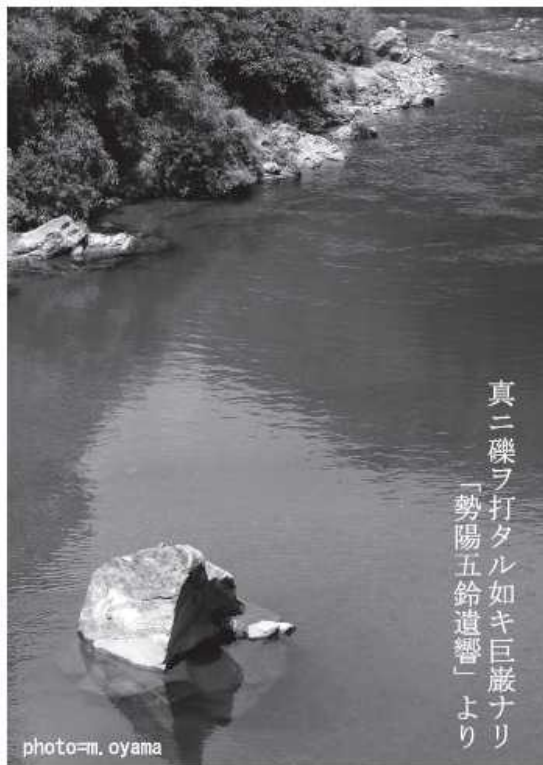


国分ヶ原伝説

ある日、天照大神が白馬に乗っておまじりになった。
 ソノころに担りを見たり「誰か国境を知者の村や」と
 声をあげられた。すると西の方の森から翁が現れ大神
 とお出迎へし、「よ境ヶ原が伊勢と大和の西國の境
 だ」と言ふと言ふ。天照大神は「あら珍しや又見
 屋根命でけりか。この境ヶ原」と言ひしや、大石を
 川に投げ入れし。場所を珍布と名付け、川を下りてい
 かれた。是より境ヶ原の川の次は境のまにけり、とこを
 境野と名付けた。川をたのみまりのまにけり、とこを
 また所を相波の里、波瀬の里、船を呼ぶまた川下
 の波が留まると所を波留と呼んだ。よらに波は勢いよく川を
 下り天照大神は又々見おろした。この日より
 高見山を西國の境とする。翁はわいさつと言ふた。
 「草古木を合つ大神の御国でござす。」

勢陽五鈴遺響より
 勢陽 かく



photo=m. oyama

つぶていし 礫石

わたしのオススメ…お気に入り
 榊田川の山里・飯南、飯高

天照大神は
 川に石を投げ入れ
 国境を決めた
 マコトラスオオニシキ

真二礫ヲ打タル如キ巨巖ナリ
 「勢陽五鈴遺響」より

此礫石トイフハ当国八石ノ内ナリ今尚存セリ
 伊勢參宮往來ノ旅人
 礫ヲ以テ彼石ニ打当ルニ中レハ男子ヲ生産シ
 打ハツセハ女子ヲ産スト云
 「勢陽五鈴遺響」より

わたしのオススメ募集 自然と食のなごも結構です。事務局までご連絡下さい。



- つぶやき 1 小学校からの帰り道、寄り道して、薄暗く神秘的なめずらし峠を通ったものです。大人になった今、そこで、幼なじみとばったり会うことがあるかも。その時は、天照大神よろしく声をかけよう「やあ、めずらしいな」と。(瀬)
- つぶやき 2 年齢を重ね互い分が分からず、「こんにちは」なんて挨拶しているかもしれませんよ。「めずらし峠」が、人が頻繁に行き交い「こんにちは峠」に生まれ変わると、天照大神もびっくりでしょうね。それにしても「峠」という和製漢字は、日本人の知恵というか小技が感じられなかなかのものですな。(岩)